

第44期 中間事業報告書

平成14年1月1日 ▶ 平成14年6月30日



近畿コカ・コーラ ボトリング株式会社



取締役社長

守 郁 正 和

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当上半期の清涼飲料業界は、個人消費の低迷を背景に、販売数量が伸び悩む中、企業間競争が一層激化しました。加えて、市場の構造的変化が進行したことによる価格の低下が、収益を圧迫する厳しい市場環境で推移いたしました。

当社グループは、こうした状況下、販売力の強化や構造改革の推進などに取り組み、業績の向上と企業価値の創造を目指しました。

下半期につきましても、厳しい経営環境が続くものと予測されますが、当社グループにおきましては、中期経営計画「飛翔21」に則り、引き続きグループ連結経営を強化する中で、販売力の強化と構造改革の推進を図るほか、ビジョンの具現化やコカ・コーラシステム内各社との協働の推進などにより、業績の向上と企業価値の創造に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともかわらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年9月

中間決算ハイライト

当中間期の業績

[連結]

当中間期の当社グループの売上高は、867億7千8百万円（前年同期比0.0%減）となりました。営業利益は、21億1千8百万円（前年同期比34.8%減）となり、経常利益は、21億2千9百万円（前年同期比34.3%減）となりました。

中間純損失は、13億6千2百万円となりました。なお、グループ各社の利益は、5月に稼働しました関西ロジスティクス㈱を除く9社が黒字となっております。

■連結対象会社：10社

関西ビバレッジサービス㈱、㈱ネスコ、近畿コカ・コーラボラックス㈱、関西ロジスティクス㈱、㈱レックスエステート、
㈱レックスリース、㈱セイコーコーポレートジャパン、㈱カディアック、㈱シーアンドシー、㈱秋吉システムズ

科目	期別	前中間期	当中間期	前年同期比(%)
売上高(百万円)		86,808	86,778	△ 0.0
営業利益(百万円)		3,251	2,118	△34.8
経常利益(百万円)		3,240	2,129	△34.3
中間純損失(△)(百万円)		△1,175	△1,362	—

[単体]

売上高は、販売量の増加（前年同期比2.8%増）がありましたが、関西ビバレッジサービス㈱設立に伴う売上高の移行や値引きの増加により759億1千3百万円（前年同期比2.2%減）となりました。営業利益は、転籍の実施や販売システムの効率化により販管費を抑制しましたが、売上高の減少に伴う利益減少を補うには至らず、11億7百万円（前年同期比43.3%減）となり、経常利益についても12億3百万円（前年同期比45.9%減）となりました。

また、退職給付会計基準変更時差異の償却額20億1千5百万円および転籍実施による特別退職金25億5千3百万円を特別損失として計上したことなどにより21億6百万円の中間純損失となりました。

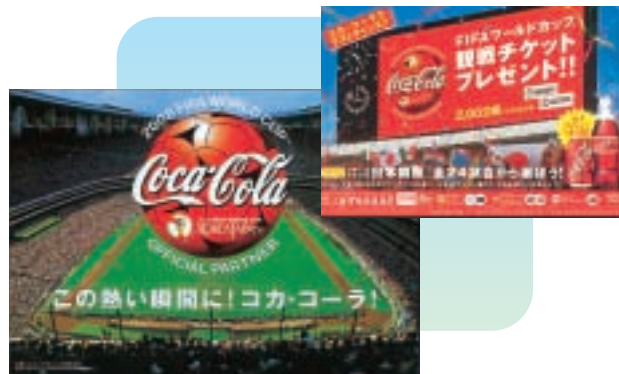
科目	期別	前中間期	当中間期	前年同期比(%)
販売函数(千ケース)		36,799	37,815	2.8
売上高(百万円)		77,590	75,913	△ 2.2
営業利益(百万円)		1,953	1,107	△43.3
経常利益(百万円)		2,222	1,203	△45.9
中間純損失(△)(百万円)		△1,628	△2,106	—

営業の概況

販売面におきましては、市場の変化に対応した業態別戦略を展開したほか、利益重視の新しいビジネスモデルの構築やグループ各社との戦略協調などによる販売力の強化に努めました。また、引き続き、「No Reason Coca-Cola キャンペーン」や「ジョージア 明日があるさ キャンペーン」や「ジョージア 明日があるさ キャンペーン」を実施したほか、新たに、「2002FIFAワールドカップ」をテーマとした消費者プロモーションを展開しました。加えて、新製品として、「茶宝」「ジョージア ヨーロピアンブレンド」「くまのプーさん はちみつレモン」などを発売し、ブランド力の強化と販売の拡大を図りました。

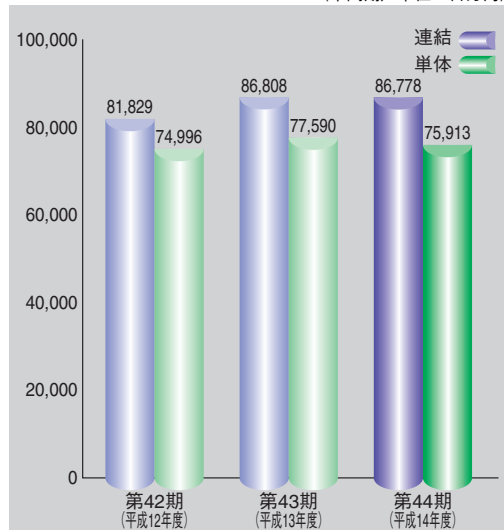
製品の需給面におきましては、ボトルの枠を越えた需給の最適化を推進しました。1月には、西日本のボトルの製品需給調整を行う「西日本需給機構」を発足させました。また、3月には、明石工場において、コカ・コーラリフレッシュメントプロダクツ株式会社との共同投資3ライン目

となる無菌充填ラインでの生産を開始しました。さらに、ボトル缶の需要に対応するため、中京コカ・コーラボトリング株式会社との共同生産を拡大し、同社東海工場No.5ラインが4月に、No.6



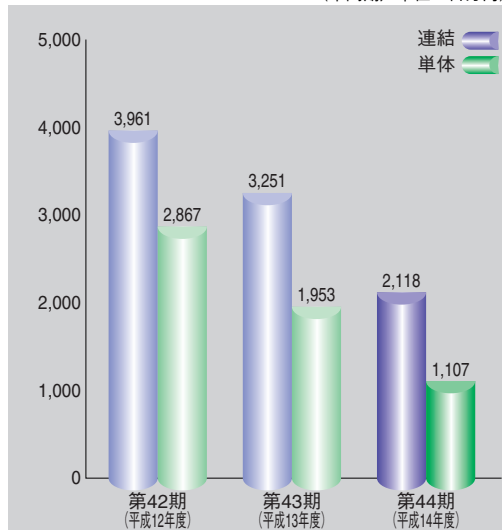
売上高

(中間期/単位: 百万円)



営業利益

(中間期/単位: 百万円)



ラインが5月に、それぞれ稼働しました。加えて、5月には、「森の水だより」の需要の増加に対応するため、西日本のボトラー5社の共同出資による「大山ビバレッジ株式会社」（鳥取県）を設立しました。他方、商品フレッシュネスに注力するとともに、当社グループ全体としての品質保証体制をさらに強化しました。

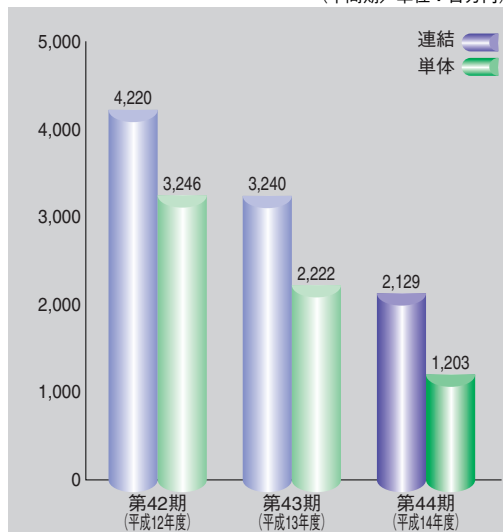
構造改革面におきましては、引き続き経営体制の効率化と収益改善を図るべく、当社グループ全体での改革を推進しました。1月には、京都工場の製造業務を近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社へ移管したほか、物流面の効率化を目指し、物流新会社「関西ロジスティクス株式会社」を設立しました。また、2月には、販売機器関連ビジネスに係わるグループ会社4社が合併し、「関西ビバレッジサービス株式会社」として新たにスタートしました。さらに、これら構造改革を円滑に推進するため、当社とグループ各社との連結経営を

強化しました。加えて、グループ会社への出向者のうち233名が転籍し、当社およびグループ会社の経営基盤の強化を図りました。他方、コカ・コーラウエストジャパン株式会社やコカ・コーラシステム内各社との協働を積極的に推進しました。



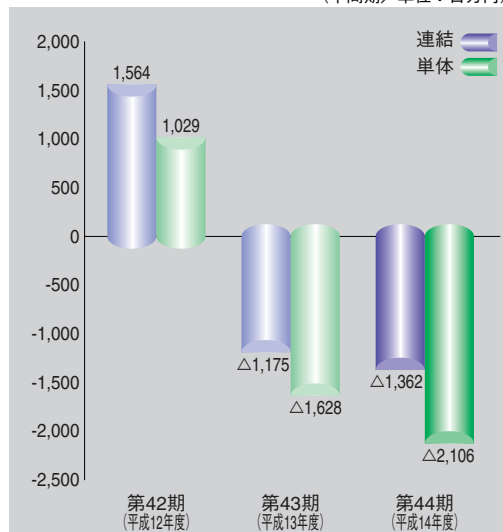
経常利益

(中間期/単位：百万円)



中間純利益または純損失

(中間期/単位：百万円)

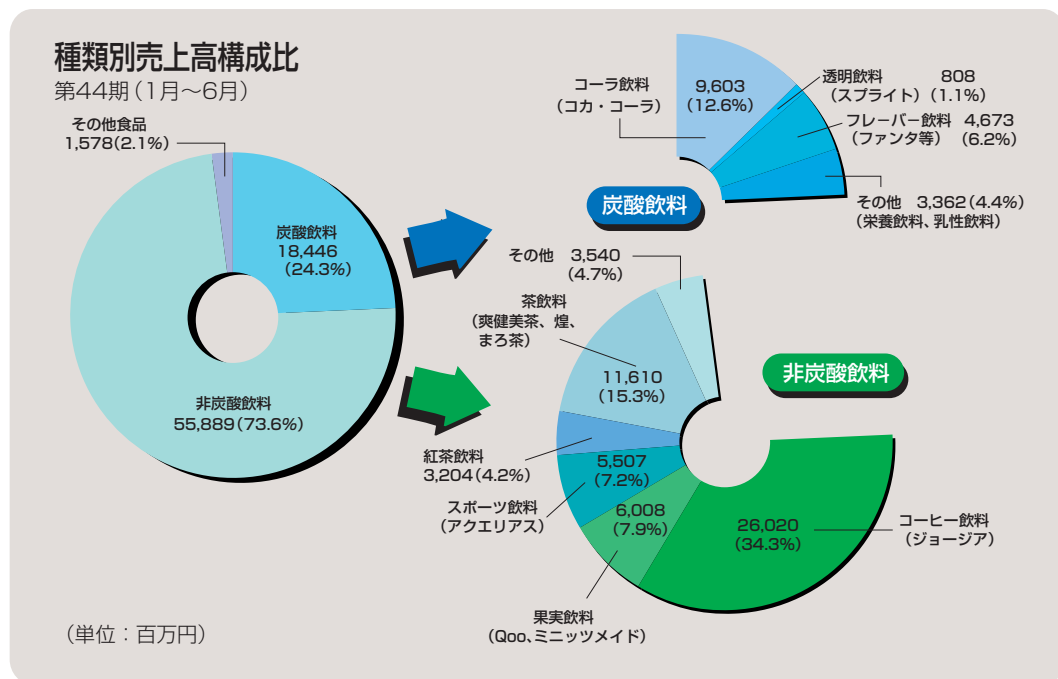


種別別売上高状況

炭酸飲料につきましては、コーラ飲料が、「コカ・コーラ」「ダイエットコカ・コーラ」の広告キャンペーンの成果等により、売上高は増加しました（前年同期比5.1%増）。透明・フレーバー飲料は、「ファンタ」が微増となり、「スプライト」が減少しました。この結果、炭酸飲料全体としては、184億4千6百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

非炭酸飲料につきましては、コーヒー飲料が、新製品「ジョージア ヨーロピアンブレンド」「モカレーチェ」の発売や、「明日があるさ」広告キャンペーンの継続実施もありましたが、売上高は減少しました（前年同期比1.0%減）。果実飲料は、新製品「Qoo（クー）パイナップル」が売上に貢献し、前年同期比7.3%増、スポーツ飲料は、「アクエリアス」の2Lペットの販売増等により、前年同期比4.9%増、茶飲料は、「爽健美茶」「まる茶」の好調により、前年同期比6.1%増となりましたが、紅茶飲料とその他非炭酸飲料は減少しました。この結果、非炭酸飲料全体としては、558億8千9百万円（前年同期比1.6%減）となりました。

その他食品等は、15億7千8百万円（前年同期比19.4%減）となりました。



主な新製品



ジョージア
ヨーロピアン
ブレンド

190g缶

ハイ・ロースト&フレンチ・ローストの絶妙なブレンド。深い味わいと、すっきり後味が楽しめる本格派向け「微糖」コーヒー。



ファンタ
フルーティーグレープフルーツ

350ml缶 500 mlPET 1.5LPET

ファンタならではのフルーティーさたっぷりで、かつ後味すっきりグレープフルーツ味。



くまのプーさん
はちみつレモン

350g缶 500mlPET 1.5LPET

レモン果汁、はちみつとビタミンCも入っている健康的な飲み物です。さっぱりとして飲みやすい味。



ジョージアモカレーチェ

280g缶 290mlPET

牛乳23%のカフェ・オ・レに、甘さ控えめのチョコ味を加えた、カフェでも人気のおいしさ。カフェレーチェシリーズの新ラインアップ。

Qoo
パイナップル



350g缶 500mlPET 1.5LPET

人気のQooよりパイナップルフレーバーの登場です。オリゴ糖使用で甘さをおさえて、後味すっきり。

茶宝



340g缶 500 ml 2LPET

「医食同源」の考え方をもとに、アガリクス・イチヨウ葉・紅花・龍眼肉・なつめの実の天然素材をブレンドした、華やかな香りの新・中国茶。

2002年9月以降発売の小型ホットPET



まろ茶
350ml



爽健美茶
350ml



ラブポディ
350ml



紅茶花伝
ロイヤルミルクティ
280ml



ジョージア
カフェレーチェ
280ml



くまのプーさん
はちみつレモン
280ml



ウィンター
アクエリアス
280ml

2002年・重点4ブ



コカ・コーラ

桑田佳祐とのコラボレーションキャンペーン“*No Reason Coca-Cola*”を下期も継続し、さらに強化します。



プロモーションポスター



TV・CM



275mlボトル缶



400mlボトル缶



爽健美茶

ドリームズ カム トゥルーとのキャンペーン“しぜんに。しぜんに。爽健美茶”を下期も継続、強化します。



ポスター



TV・CM



ランド・キャンペーン



ジョージア

“明日があるさ”キャンペーンを下
期も継続し、9月からは秋季プロモ
ーション Gコート'02「ザ・ムート
ン」がスタートします。



プロモーションポスター



TV・CM



アクエリアス

“一生、スポーツ。アクエリアス”
キャンペーンを展開。アスリート
から一般の人々まで、スポー
ツを楽しむ全ての人のスポーツ
ライフを讃えます。



ポスター



TV・CM



連結経営へグループ

当社を中心としてグループ各社が、
さらに経営基盤の確立と競争力の強化を目指します。

ポトラー系事業

●ポトラー事業を当社と共に、多彩なノウハウ・情報を相互に活用。

関西ビバレッジサービス株式会社

自動販売機ビジネス関連業務をトータルにサポートすることで、高品質なサービスを迅速に提供します。

近畿コカ・コーラ ペンディング事 業本部

コカ・コーラ商品(缶&カップ)の自動販売機オペレーション



株式会社ネスコ

アミューズメント業界を中心に、缶・カップ商品の自動販売機およびカップめんなどの食品自動販売機オペレーターとして、ベストサービスをお客さまに提供しています。



エフ・ヴィ事業部

紙パック飲料・カップめんなどの自動販売機オペレーション



レックステクノ システムズ事業部

各種販売機器の設置・修理・整備事業



近畿コカ・コーラ プロダクツ株式 会社

当社の委託を受け、コカ・コーラ社製品の製造を行っています。明石工場・京都工場ともISO9002の認証を取得しています。



レクシー事業部

オフィスコピーサービス事業およびテレホンカード・交通カードなどの販売



業務部

当社およびグループ会社の支店、物流センター、営業所の事務業務



関西ロジスティクス株式会社

量販店、酒店、食料品店などの販売物流の配送業務および工場物流の輸送・保管・荷受業務を高品質なサービスで提供しています。



パワーを結集

これまで「パスポート21」構想のもと、グループ会社は独立・自立を図り各社とも黒字会社に成長することができました。しかし、これからの厳しい時代、各社単独では限界があり、グルーブ一体となって全体最適を図ることが必要となりました。

独立系事業 (ポトラー関連以外の事業)

●食と情報サービスを通じて暮らしにうおいとゆたかさを。



株式会社レックスエステート

不動産関連の調査・企画設計から賃貸・売買・管理などの運営までを総合的に展開しています。



株式会社カディアック

関西国際空港株式会社より委託を受けた国内の飲料会社6社の共同出資会社。世界中から訪れる人々ののどを潤すために、優良商品を安全かつ迅速にお届けしています。



株式会社レックスリース

ビジネスユーザー向けのメンテナンス付きオートリースおよび周辺用品の販売や保険代理業などを展開しています。



株式会社シーアンドシー

ビデオ・CDのレンタルショップ「TSUTAYA」を展開するTSUTAYA事業「ミスカーナッツ」「どんかつの彩多家」を運営する外食事業、約20,000種類の全国こだわり食品の販売地、手づくりのフルーツ・シャーベット「アンジュード・パージュ」を製造販売する食品事業など幅広い事業を展開しています。



株式会社セイコーコーポレートジャパン

オートリース会社や一般ユーザーからの車検・点検・整備を中心に、新車・中古車の販売も行い、高度化する車社会に対して総合的なサービスを提供しています。



株式会社秋吉システムズ

焼き鳥の名門「秋吉」のサブフランチャイザー事業を展開中（現在、直営店は8店舗、加盟店は31店舗）。店舗設計からメニューづくり・商品供給・開店指導に至るまで、加盟店へのキメ細かなサポートを行っています。



コカ・コーラ環境マネジメントシステム (eKOシステム) を導入

環境保全に対する企業の社会的責任が問われる中、当社は2001年6月より、全世界のコカ・コーラボトラーに先駆け「eKOシステム」のパイロットボトラーとして取り組みをスタートしました。

「eKOシステム」とは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001をベースに、ザ コカ・コーラ カンパニー（本社 米国アトランタ市）が構築した独自の環境マネジメントシステムで、全世界のコカ・コーラグループへの導入を目指しております。

このシステムは、日常の事業活動の中で、水や電気・燃料などの効率的使用、資材の減量化・再使用、排ガスの抑制、廃棄物の削減、包材・空容器のリサイクルなど「環境負荷軽減」に取り組むことにより、環境保全と経営効率の向上を目指したものです。

コカ・コーラグループが、世界的規模で「eKOシステム」に取り組むことにより、当社はもとよりグループ全体の経営基盤・競争力の強化とともに地球環境保全に貢献することになります。



eKOシステム構築のスケジュール

「eKOシステム」は、当社において段階的に導入しており、昨年度はISO14001を認証取得している京都工場を始め本社など4事業所に導入しました。今年度は、さらに中京支店など21事業所に拡大導入しており、2003年度には当社グループ会社を含む全事業所に導入する予定です。

※eKOの「e」は環境 (environment)、「KO」はザ コカ・コーラ カンパニーのニューヨーク証券取引所での呼称です。

※写真は、空缶や紙カップ・ペットボトルなど空容器を分別・収集するために、eKOのロゴマークを表示した分別ボックスを、本社棟各階の通路などに設置している様子です。

次世代自動販売機

「シーモ」が関西初登場

屋外自動販売機では関西初となる「Cmode（愛称：シーモ）」が、5月19日大阪ミナミ・アメリカ村に登場。業界初の「シーモ」は、携帯電話（iモード）を使って飲料をはじめ着メロやチケットを購入できる自動販売機で、日本コカ・コーラ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、伊藤忠商事(株)の3社によって共同開発されました。今年度中に当社テリトリー内で200台、全国のコカ・コーラグループで2,000台をマーケットに投入する予定です。

Cmode対応自販機「シーモ」とは

通常の自動販売機に、コンピューターとディスプレイ、スピーカー、プリンターなどを搭載した、新情報端末型自販機です。通常の清涼飲料自販機としての使用はもちろんのこと、ボタンを押すことで「Cモード」に切り替わり、Cmodeサービスが利用できます。

プリンターによりチケットや地図の購入ができるほか、ディスプレイやスピーカーも付いていますので、待受画面や着メロの購入もできます。



西日本5ボトラー「大山ビバレッジ(株)」設立

当社を含む西日本5ボトラー（CCWJ・中京・南九州・四国・近畿）は共同出資でミネラルウォーター「森の水だより」を製造する新会社「大山ビバレッジ(株)」を5月15日に設立しました。

現在、鳥取県に建設を進めている同社工場には2LPETラインの導入を計画しており、設備

投資にはコカ・コーラティープロダクツ(株)も参加しています。

年間生産能力は1億本、製造開始は来年4月を予定。同社の設立により、コカ・コーラシステム内での製造効率を高めるとともにさらなる品質の向上を目指します。

概要

【会社名】大山ビバレッジ株式会社

【所在地】鳥取県日野郡溝口町

【設立】2002年5月15日
(2003年4月稼働予定)

【資本金】1億円

【出資比率】CCWJ33%・近畿27%・中京17%・南九州15%・四国8%

【事業内容】ミネラルウォーター製品の受託製造および清涼飲料水の製造



連結財務諸表の要旨

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

期別 科目	当中間期 (平成14年6月30日現在)	前中間期 (平成13年6月30日現在)	前期 (平成13年12月31日現在)	期別 科目	当中間期 (平成14年6月30日現在)	前中間期 (平成13年6月30日現在)	前期 (平成13年12月31日現在)
流動資産	38,772	36,211	40,420	流動負債	19,267	21,468	20,053
現金及び預金	8,977	6,588	12,803	支払手形及び買掛金	8,549	9,840	8,292
受取手形・売掛金	12,609	12,128	9,939	短期借入金	2,136	2,519	1,918
有価証券	1,599	3,070	4,225	未払金	4,196	4,155	3,786
たな卸資産	9,642	8,863	8,476	未払法人税等	230	479	1,263
その他	5,942	5,561	4,976	その他	4,154	4,473	4,792
固定資産	81,135	84,271	80,670	固定負債	18,490	15,320	16,773
有形固定資産	65,977	69,009	65,737	転換社債	8,167	8,167	8,167
建物及び構築物	16,441	17,222	16,369	長期借入金	2,948	3,256	3,551
機械装置及び運搬具	12,356	13,005	11,605	退職給付引当金	5,227	1,864	3,337
販売機器	13,986	14,695	13,563	その他	2,146	2,032	1,717
土地	18,235	18,427	18,060	負債合計	37,757	36,788	36,826
その他	4,956	5,658	6,139	少数株主持分	49	32	42
無形固定資産	5,210	3,445	5,288	資本金	10,948	10,948	10,948
投資その他の資産	9,948	11,816	9,644	資本準備金	10,040	10,040	10,040
				連結剰余金	60,993	62,256	63,070
				その他有価証券評価差額金	129	418	169
				自己株式	△ 9	△ 0	△ 5
				資本合計	82,101	83,661	84,222
資産合計	119,908	120,483	121,091	負債・少数株主持分及び資本合計	119,908	120,483	121,091

(注)
 1. 有形固定資産の減価償却累計額 (平成14年6月中間期) 97,886百万円
 2. 保証債務 315百万円
 3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

(平成13年6月中間期)
 97,443百万円
 551百万円

(平成13年12月期)
 97,467百万円
 343百万円

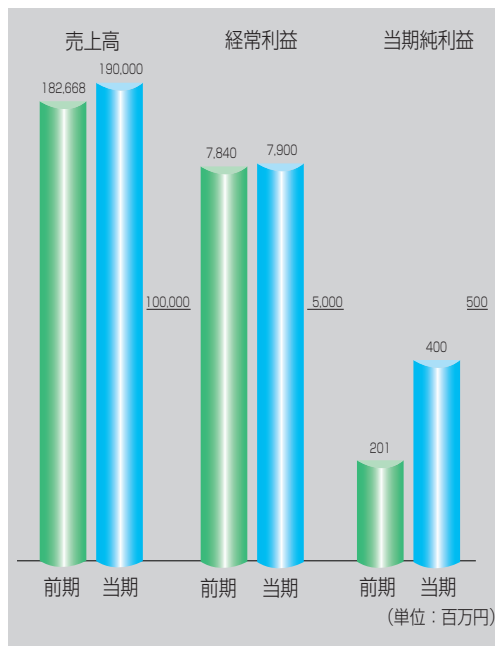
中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前 期
		(平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年12月31日まで)
売上高		86,778	86,808	182,668
売上原価		44,950	44,586	96,446
売上総利益		41,827	42,221	86,221
販売費及び一般管理費		39,709	38,970	78,154
営業利益		2,118	3,251	8,067
営業外収益		288	296	638
営業外費用		277	306	864
経常利益		2,129	3,240	7,840
特別利益		355	—	807
特別損失		5,079	5,108	7,796
税金等調整前中間(当期)純利益又は純損失(△)		△ 2,594	△ 1,867	851
法人税・住民税及び事業税		297	494	1,615
法人税等調整額		△ 1,538	△ 1,198	△ 988
少数株主利益		9	11	23
中間(当期)純利益又は純損失(△)		△ 1,362	△ 1,175	201

通期の見通し

(平成14年12月期)



中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前 期
		(平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年12月31日まで)
連結剰余金期首残高		63,070	64,124	64,124
連結剰余金減少高				
配当金		563	563	1,126
役員賞与		150	128	128
中間(当期)純利益又は純損失(△)		△1,362	△1,175	201
連結剰余金中間期末(期末)残高		60,993	62,256	63,070

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前 期
		(平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年6月30日まで)	(平成13年1月1日から 平成13年12月31日まで)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		538	1,904	15,755
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 4,741	△ 8,548	△ 15,517
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 953	△ 1,271	△ 2,268
IV. 現金及び現金同等物の減少額		△ 5,156	△ 7,915	△ 2,030
V. 現金及び現金同等物の期首残高		15,343	17,373	17,373
VI. 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		10,186	9,458	15,343

(注) 1. 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高と中間(期末)連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	当中間期	前中間期	前 期
	(平成14年6月中間期)	(平成13年6月中間期)	(平成13年12月期)
現金及び預金勘定	8,977	6,588	12,803
有価証券勘定	1,599	3,070	4,225
その他勘定	—	—	500
計	10,576	9,658	17,529
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△ 390	△ 195	△ 2,185
価値変動リスクのある株式等有価証券	—	△ 4	—
現金及び現金同等物	10,186	9,458	15,343

2. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する定期性預金及び満期日又は償還日等の定めのない容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

個別財務諸表の要旨

中間貸借対照表

(単位：百万円)

期別 科目	当中間期 (平成14年6月30日現在)	前中間期 (平成13年6月30日現在)	前 期 (平成13年12月31日現在)	期別 科目	当中間期 (平成14年6月30日現在)	前中間期 (平成13年6月30日現在)	前 期 (平成13年12月31日現在)
流動資産	35,718	33,158	37,029	流動負債	13,743	14,867	13,514
現金及び預金	7,354	4,726	9,935	買掛金	5,141	5,958	5,067
受取手形・売掛金	12,031	11,094	9,545	未払金	3,751	4,356	3,280
有価証券	1,599	3,070	4,225	未払法人税等	4	5	951
たな卸資産	8,664	8,351	7,269	預り金	408	597	382
その他	6,069	5,915	6,053	その他	4,436	3,949	3,832
固定資産	72,392	74,320	71,719	固定負債	14,413	11,106	12,500
有形固定資産	54,233	56,564	53,817	転換社債	8,167	8,167	8,167
建物及び構築物	13,939	14,535	13,774	退職給付引当金	4,824	1,600	2,967
機械及び装置	10,232	10,988	9,684	その他	1,422	1,338	1,365
販売機器	13,676	14,424	13,286	負債合計	28,156	25,974	26,014
土地	15,529	15,694	15,328	資本金	10,948	10,948	10,948
その他	855	921	1,743	法定準備金	11,658	11,602	11,658
無形固定資産	2,030	1,132	1,707	その他の剰余金	57,233	58,546	59,969
投資その他の資産	16,128	16,623	16,194	その他有価証券評価差額金	122	407	163
				自己株式	△ 9	—	△ 5
				資本合計	79,953	81,505	82,734
資産合計	108,110	107,479	108,749	負債・資本合計	108,110	107,479	108,749

(注)

1. 有形固定資産の減価償却累計額

(平成14年6月中間期)

83,424百万円

(平成13年6月中間期)

83,860百万円

(平成13年12月期)

83,385百万円

2. 保証債務

44百万円

80百万円

71百万円

3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

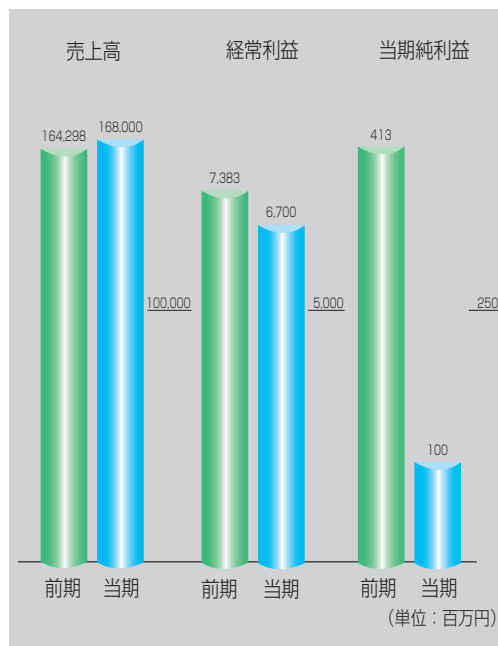
中間損益計算書

(単位：百万円)

期別 科目	当中間期 (平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで)	前中間期 (平成13年1月1日から 平成13年6月30日まで)	前期 (平成13年1月1日から 平成13年12月31日まで)
売上高	75,913	77,590	164,298
売上原価	41,070	40,687	87,965
売上総利益	34,843	36,902	76,333
販売費及び一般管理費	33,735	34,949	69,664
営業利益	1,107	1,953	6,668
営業外収益	307	518	1,243
営業外費用	211	249	528
経常利益	1,203	2,222	7,383
特別利益	340	—	750
特別損失	5,064	4,990	7,568
税引前中間(当期)純利益 又は純損失(△)	△ 3,520	△ 2,767	565
法人税、住民税及び事業税	20	33	1,077
法人税等調整額	△ 1,434	△ 1,172	△ 925
中間(当期)純利益 又は純損失(△)	△ 2,106	△ 1,628	413
前期繰越利益	1,293	2,476	2,476
中間配当額	—	—	563
利益準備金積立額	—	—	56
中間(当期)未処分利益 又は未処理損失(△)	△ 812	848	2,270

通期の見通し

(平成14年12月期)

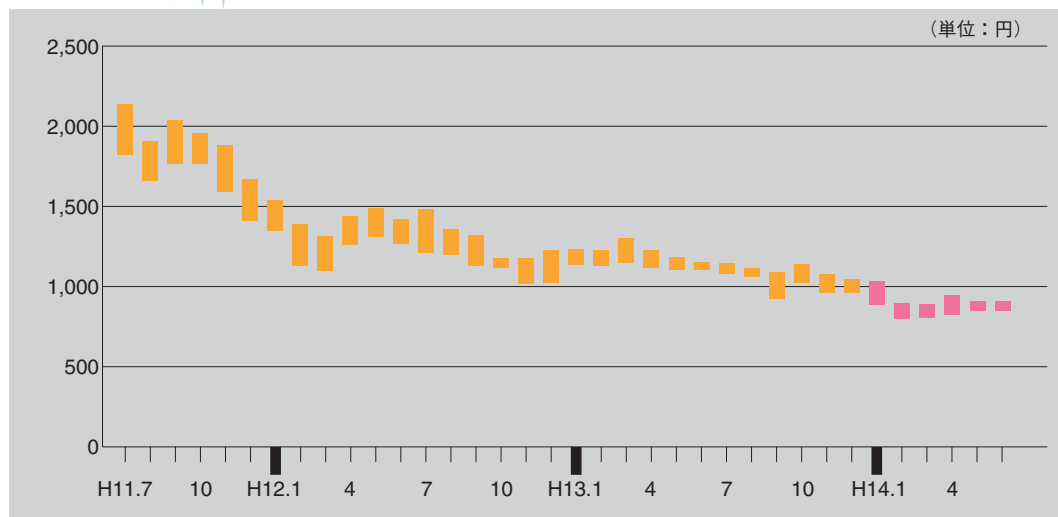


中間配当金は1株につき9円とさせていただきます。また、期末配当金は1株につき9円とし、中間配当金と合わせて年18円の配当を予定しています。

株式の概況

1. 株価の推移

(平成14年6月30日現在)



2. 株式の総数・株主数

会社が発行する株式の総数

■150,000,000株

発行済株式総数

■62,591,049株

株主数

■5,530名

3. 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
麒麟麦酒株式会社	25,179	40.23
三菱重工業株式会社	9,274	14.82
年金信託受託者三井アセット信託銀行株式会社20	1,589	2.54
近畿コカ・コーラボトリング社員持株会	1,567	2.50
神大和株式会社	1,050	1.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	1,049	1.68
株式会社弥谷	855	1.37
ドイチェ信託銀行株式会社	608	0.97
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	490	0.78
ボストンセーフデポジットビーエスティー	463	0.74
ティートリーティークライアントズオムニバス		

4. 社債の株式転換状況

銘柄	発行年月日	発行総額	残高	転換率
第1回国内無担保 転換社債	平成8年11月14日	13,000百万円	8,167百万円	37.2%

株主メモ

決算期	12月31日
株主確定基準日	
●定時株主総会、利益配当金	12月31日
●中間配当金	6月30日
定時株主総会	3月
名義書換代理人	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(電話照会先)	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03) 5391-1900 (代表)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
1単元の株式の数	1,000株
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主優待	毎年12月31日現在の1,000株以上ご所有の株主さまに対し、3,300円相当の当社製品を4月中旬に贈呈します。

お知らせ

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要です。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

証券コード 2576

ホームページアドレス <http://www.kinki.cbcb.co.jp>